

第2回町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画改定検討委員会 会議録

○開催日時 2022年12月12日(月) 10時～12時

○場 所 町田市庁舎9階 会議室9-3

○出席者 出席委員：川原晋委員長、寺田徹副委員長、石井秀幸委員、
仲村清彦委員、菊山聖哉委員、越水淳委員、
園田理恵委員、樋口健治委員、坂本愛委員

欠席委員：なし

傍聴者：なし

事務局：観光まちづくり課長
他事務局4名

○資料

- 1 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～Ver.2～(概要版)
- 2 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～Ver.2～案
- 3 計画策定スケジュール
- 4 第1回町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画改定検討委員会会議録

○次第

1. 開会
2. 「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～Ver.2～案」について
3. 四季(春夏秋冬)それぞれの四季彩の杜の楽しみ方について
4. 事務連絡

事務局より計画に関して説明を行い、以下の質疑応答があった。

1) 「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～Ver.2～案」について

・本編の24ページの七国山の由来について、七つの国の内、信濃と下野は七国山から展望することは難しいように思う。安房と上総が含まれるのではないか。確認願いたい。

→事務局にて確認する。

・17ページにおける北園について、景観作物エリアの拡張という取組に限定していることから、体験型の取組も含めると良い。

・西園は全体的に少ない20代の来訪者が多く利用するエリアであることから、その層に向けた計画を入れた方が良い。また、四季彩の杜の楽しみ方として花に加え、食についても加えた方が良い。また、四季彩の杜の活用方法の絵を入れる

と分かりやすい。

- ・町田市のマスタープランと同様にビジュアル的に分かりやすい表現を加えることが大切である。

- ・薬師池とリス園との間に連絡通路を設け、人が簡易に行き来できる取組を検討することが望ましい。

→計画に記載しているが、伝わりにくいので、書き方を工夫する。

- ・計画のイメージをイラストで載せると良いと思う。また、本編 28 ページの基本方針⑤について「公共交通機関の利用推進と交通誘導サインの設置」について、今年の紅葉まつりのときには、現地に人を配置して駐車場の混雑度を案内した。混雑する日や時間は決まっているため、駐車場の空き状況が分かる電光掲示サインの設置により対応がよいのではないか。

- ・夏の薬師池では、日除けのためテントを設置している来訪者を多く見たので日陰の施設を充実させると良いと思う。あわせてテント設置等の公園利用ルールを決める必要があるのではないか。

- ・薬師池に新しく花回廊を整備することも良いが、ツバキ園は花の名札が落ちていて良好な管理状態ではないと思っている。既存の花資源の維持管理をしていくことも重要である。

→四季彩の杜の資源は残していくという方針としたが、予算との兼ね合いで手が回っていないというのが実情となっている。

- ・指摘は大変重要、一度調査を実施する必要があるのではないか。

- ・名札に関して費用は大してかからず対応可能でないか。市の公園緑地課にツバキ園の 736 種類分の図面を渡している。現在、雑木が多く花が咲かないものが百何十本あり、品種の評定ができない。30 年前の図面があれば把握できるが、なければ、再度現地調査が必要になる。

- ・南園の再開発についてはフィールドアスレチック以外も検討した方が良い。加えて、七国山やダリア園との間に位置する住宅地について、住宅地と公園とのバランスについて検討するべき。本来ならば丘陵の中に農家が散在しているという非常にゆったりした里山の風景ができるが、乱開発より里山景観とは言えない状況である。

- ・自由民権資料館だけ薬師池公園から離れているので、自由民権の森の中に、自由民権資料館を新設しても良いと思う。資料館は開館してから 30 年経過し資料が増えており、将来的にも資料が増える可能性もあるため自由民権資料館は移転を検討した方が良いと思う。

- ・基本方針④の包括的な管理運営について、現状の体制のどのような点が問題であり、具体的にどのような取り組みを行っていけば円滑に進むのかが計画の図からはわからない。

・計画全体を読む中でどのような人がどういう関わりを持って楽しんでいるの
かっていうイメージがあまり湧かない。人のイメージが少なく、どういう人がど
ういう活動を楽しんでいるのか、どういう状態にしたいのかももう少し工夫が必
要なところではないか。

・10年間で売りとなるようなものが一体何なのかが、わかりにくい。四季彩の
杜を一体として捉えて、それぞれの園単独ではできない相乗効果を出していく
ところがポイントではないか。強弱があるとわかりやすいのではないか。

・8月の骨子案を比較したところ本編4ページの計画の対象で、施設間エリア
(民有地を含む)という項目が削除されている。除外した理由を教えてください。

→民有地まで計画対象として含めることは難しいため、対象からは削除した。た
だし、回遊を考慮すると民有地も含まれるため、考え方としては民有地も含め連
携が必要であるという考えは変わっていない。

・民有地についても地域連携の対象であるイメージを共有したいので、簡易な表
現でよいが記載することを検討いただきたい。

→計画の推進体制等に追加できないか検討する。

・北部の丘陵地を中心に個人が所有しているケースは多い。団体に突然来られる
と所有者としては驚くので、そのような際にうまく受け入れられるように、事前
に地元の町内会や自治会の人たちの理解を得るということは重要であると思う。

・この件に関しては非常に重要な指摘。今回の計画では各園をまたぐ観光行動を
想定しており、それは生活エリアに観光客が入ることになるので、それを地域が
受け止めてくれる工夫や地域にとってのメリット、関係づくりが大切である。地
域も包括的な運営に協力する体制が構築できると良い。

・前回意見して追加された7章の四季を織りなす四季彩の杜の計画をもっと前
面に押し出してはどうか。人のイメージや体験のイメージが具体的に描かれて
いる。

・今回の会議資料の概要版は本編の抜粋版ということだが、計画の概要版は目に
触れる機会が多いため、本編の抜粋版ではあってはいけない。未来図のビジョン
が書いてあり、個別の具体的なところは詳細に書く必要は無いと思う。

・袋橋周辺までの道路拡張工事について、用地買収を考慮すると、今後20年～
30年要するイメージがある。

・用地買収は、個々の地権者の相続問題など個人的な要因もあり一番大変な作
業。そのため将来的な未来像をわかりやすく描いて、多くの方にその価値を認め
てもらえるもの、心を動かしてもらえるものが望ましい。どういう風に連携する
のかという絵を一つ記載するだけでも園だけでなく地域全体を良くしていきたい
というメッセージになる。

- ・未来図の中にこの薬師中学校跡地の使い方は記載しないのか。

→市内の中でまだ具体的に決まっていないその後の活用方法については検討中となるので本計画上に記載できない。

- ・本計画は相当な投資であり、様々な場面で費用対効果等検証することが求められるだろう。西園の例のように、地域への経済的効果だけでなく町田市内の意欲ある事業者を育てていく良いフィールドにもなるので、そのような効果もあることをアピールすることも大事だ。その視点も計画内に含まれていても良いのではないか。

→市内事業者との連携を含んでいるが、伝わりにくいので記載内容を検討する。

2) 四季(春夏秋冬)それぞれの四季彩の杜の楽しみ方について

- ・地形図を見ると、それぞれの施設間の移動による、景観の切り替わり等がわかりやすいと思う。例えば薬師池公園と西園は尾根を越えてそれぞれ行き来するイメージがあるし、西園も谷に下りて北上していくと北園に辿り着くといったような、谷を歩く、尾根を越えるなどの地形体験・景観変化を楽しむのは巡ってみて初めてわかる。このような楽しみ方の要素があるということは本編に記載しても良い。

- ・地形自体を楽しむのが本エリアの特徴のように思う。ただし、エリア間の移動が困難な方のため、地域の方にモビリティが走ることを理解を頂きたい。

- ・花の盛りの春や秋繁忙期以外の閑散期にも1年通して楽しめることを考えていけたら良いと思う。地形を楽しむ、自然を楽しむといった要素がもっとあってもいいように思う。

- ・ウォーカブルや歩く楽しみがあると思う。移動が困難な方のためにもグリーンスローモビリティがあるとよい。

- ・地域の人でも楽しめるということが無いとなかなか上手くいかないと思う。そのためにはやはり地域の方のレクリエーションの場としての魅力を高めるという視点が重要。計画書にもそうした内容を盛り込みたい。

→地域住民にとってのレクリエーションとは一体どういうものが求められているについて、地域の方からご意見いただきたい。

- ・町内会では四季彩の杜で自然・景観を見ながらウォーキングするという健康を兼ねた企画をしている。

- ・以前は本土シマリスも放し飼いにされており、当時の状態が良いと考える方々も特に30代以降に多いと思う。

- ・鶴見川沿いの地域では、農家と小学校のPTAに繋がりがあがり収穫体験や子供会のレクリエーションが実施されていた。このような子供たちが楽しめるプログラムは子育て世代にアピールできるのではないか。まず、地域に存在する「先

生」となりえる人材を把握できるといいと思う。

- 学びを教える側と教えられる側の両方が積極的に楽しめる仕掛けは重要である。例えば下北沢の駅周辺では、植栽管理を地域の人も担っている。造園等の技術をプロが住民へ教えるという仕掛けが組み込まれており、大変参考になる。

- 地域にかつて存在した炭焼き小屋を復活させて、地域の農産物でバーベキューをしてはどうか。

- リス園からダリア園へ実際に歩く場合はかなり距離がある。自然豊かで癒される地域だからこそ簡単に移動ができる手段も検討した方が良い。

- 動物福祉の観点でこれから法的規制が厳しくなると思う。将来、リス園について直接触れ合うことができなくなる可能性もあるので展示にも力を入れないといけない。日本リスに関して、井之頭動物園と連携し繁殖させる計画があるがかなり長期的なプロジェクトとなる。薬師池に絶滅危惧種に特定される可能性のあるニホンイシガメを放流したいが、現在外来種であるアカミミガメが生息しており、なかなか放流できない。

- 地元住民の興味について、11月に実施したイベントで来訪者に喜んでいただけたのが防災に関わるイベント。「防災×キャンプ」というテーマで有事の際にはキャンプ用品がこのような形で役立つという講演を行い非常に評判が良かった。

- 近隣の小学校や住民の方々にひまわりを育てていただいて、その種をリスの餌として活用する「ひまわりプロジェクト」というものを立ち上げたらどうかと思う。リスの糞は垂れ流しということで集められないかもしれないが、モルモットの糞を集めて畑の肥料として使うなど、地域での循環が実現できれば良いと思う。

- 西園について、観光の拠点とはいえ、現状では駐車場の不足、大型バスへの対応ができない等の課題がある。例えばパーキングを四季彩の杜全体で地主の協力の下、軒先をお借りする等により駐車場問題を解決するといった連携が考えられる。

- 北園開園後の宿泊をどうするのかという課題について、宿泊施設を新たに北園に作るのではなく、四季彩の杜周辺の団地における空き家をうまく活用して宿泊施設として連携できたら良い。

- 本計画の姿勢について、上記の皆さんの意見にあるような四季彩の杜を核としながら育む地域の未来像を意識した「長期的な計画であり、面的な方向性を示す」ということを、「はじめに」に記載すると良いと思う。

- 連結バスの導入などが進む地域でもあるので、バス等の公共交通機関を利用いただいでエリア内を歩くということをアピールするとウォークアブルな指針が見えて良いのではないかと。

•学校の統合廃止により、地域の防災拠点が少なくなっているため、公園の防災拠点としての活用もできないか。また、西園のひまわりをランドマークとして、種がリスの餌に活用する等の繋がりが見えると良いと思う。

4. 事務連絡

- 第3回委員会：2023年2月8日（水）9:30～
- 第4回委員会：2023年6月予定

5. 閉会

以上